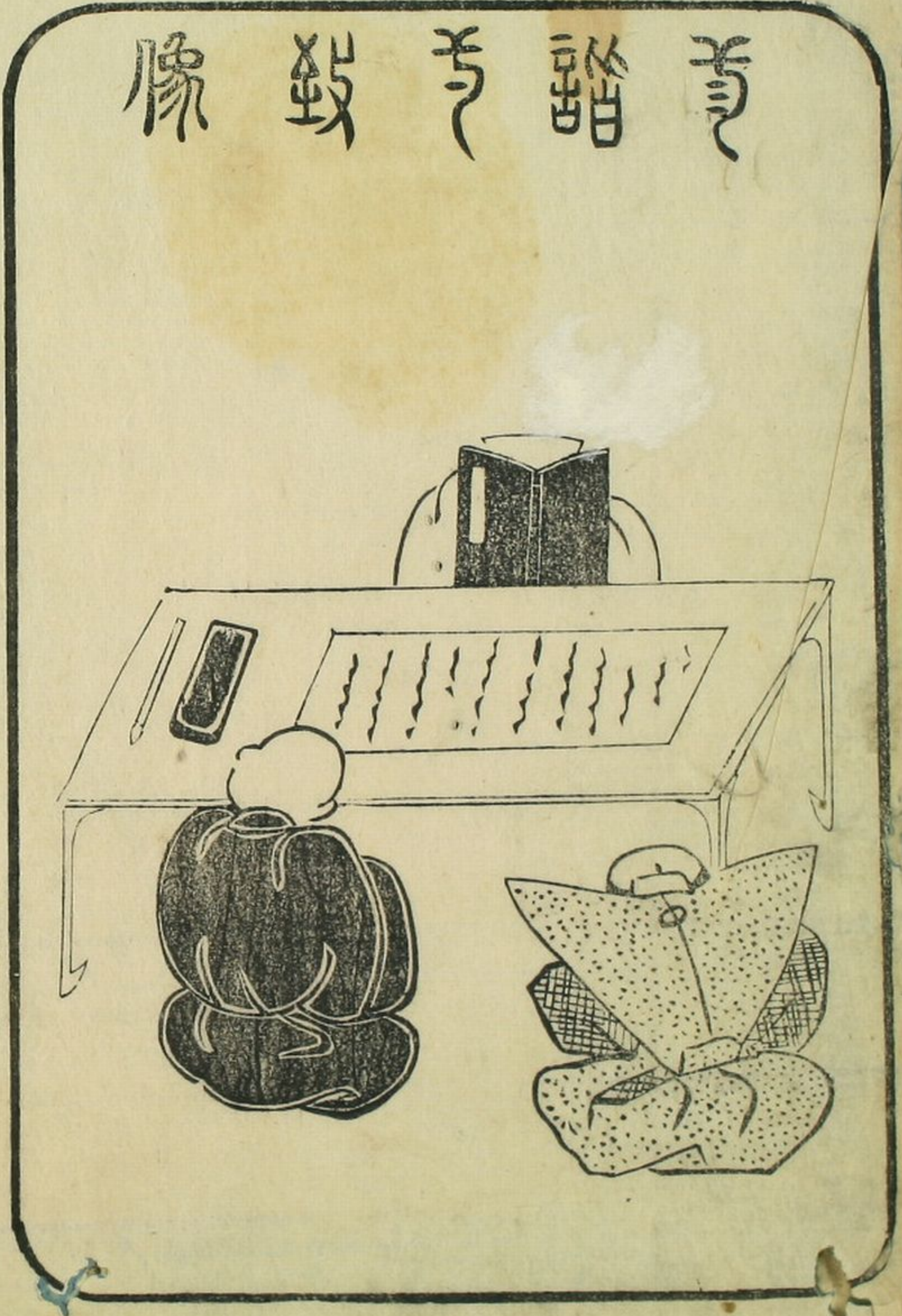


善諧善像



誹諧沃焦叙



涉江望海春汪洋浩瀚不見其
崖也今夫誹諧者濫觴於風雅
而沂洄於和歌其所詠唱續紛
雜沓比興相感情致微中鷓夷
如壺藉沽無竭而吹噓言笑嘯
詠詼吟春亦復何限然其賤物

速情莫所封畛而一時嗟嘆賞
翫者固有所學習也豈啻如仰
天纓索情珥遺簪八斗而二參
也哉出口成章也霞起雲蒸而
綺語繡句咳唾珠璣者蔓衍扶
疏或至億萬言也詞源幽微天倪
無窮何其浩瀚汪洋也豐津氏

作此昏也依其所學習而揭其
端以便同志而欲叩寂寞而求
徽音者其有取焉是雖不能尽
汪洋亦猶若沃焦巖空故曰誹
諧沃焦彼涉江望海者不其崖况
愈往愈惑今也送惑者以濟焉
而送者自崖而返惑者徒然

而徃徃者自此遠矣

由身に由る勢流浩此位格者格を依物也

然人先流浩の家邦其風俗中して八重垣此大雅

此末なるを以て今此流浩解となる其祖を貞

徳傳流浩家譜にしてはいて季吟上出極青上其角上

起了我師半時菴淡と翁とを夢く四海に流布するに

か所を。いそや教白と八月雪花をる生物生之を

貴員一といひ出せるか小いふは優劣中を言此

法をのりて一十時此季を正と云ふ切字馬也

てふをそ而放なくして白と神々一具切字とハ

凡七ヤ其丹は 切 多 かふ くりふ

え得 切 多 切 多 多

知多 切 多 切 多

さ多 切 多 切 多

同 卷 句 後 仮字体字 不収早収 列々三字

こそ それ 十九ふん十ふん 一字を統

具外子多し切字何と切者ふん切字

と習はる可なり又与法 追善 祈禱 善想 送別

自他右傳 何と師傳を統下。初は教句に別 切字

切字切字をばけ 切字三 切字三 切字三 切字三

切字を 切字 切字 切字 切字

也 七十二候 鮮ニ 百款 十の百款 十卷 七の十

白くふ其言仙伴格ハ

○哥仙ハ面六勺 五勺目月、 初葉十二勺 八勺目月秋ノ末ニ至リ

名抄面十二勺 土勺目月、 口葉六勺 五勺目花ハ定ナリ

右面此葉勺ガ正花 此花ト云 此勺ナクハ正葉此土月ノ正花

是ノ月ト云ハ他葉ノ正花ト云ハ定ナリ

廿二勺ハ正仙ハ正上ニ花ニ本月三ノ葉ナリ

式ハ枚遠ハハ傳ハク事ナク

○百款ハ面八勺 七勺目月 初葉十四勺 十勺目月秋ノ末

二、面十四勺 十三勺目月 二葉十四勺 初葉ノ末

三、面十四勺 二、面ノ末 三、葉十四勺 初葉ノ末

名抄面十四勺 三、面ノ末 名抄葉八勺 目月ノ末

右面勺ノ月七勺花四葉ト云ハ一、時定ニハ他ノ葉ノ花

雜、花、頂、花、付、を、さ、ら、す、事、何、也、又、移、名、の、り、と、月、の

名、名、の、り、と、事、何、の、皆、葉、伴、ノ、物、也、事、ナ、ク、ハ、二、葉

子細何の付せしむ

○四十ヨハシと右百負世初面八句初裏十四句名抄面
十四句名抄裏八句小て四十四句之七俣八百款カ

ハハニニニ折
推ルナリ

○七十二候と八百款の初面八句初裏十四句二面十四
句二裏十四句名抄面十四句名裏八句小て五十四句
ニ折ヲ扶ナリ

○五十款と八百款世初面八句初裏十四句二面
十四句二裏十四句小て五十四句情紙五句引紙
とこく先ハ本款とて婦也急左此上て是等事
具非短哥行 源氏山服中少の少句終ハ裏俣
ちるも具に之中しはるる事也

春秋此句出リ三句と五句と五句と五句と六句と廿二句
中ハ指凡誦物多き時たれハなるに内秋三句此等

五月の下旬より一月初旬迄は秋の暮候にして
 暑候に二三日ありて
 廿九日

五月の下旬より一月初旬迄は秋の暮候にして
 暑候に二三日ありて
 廿九日

との申一旬迄て

〇は文字たりて
 〇は文字たりて

神祇 神祇 三つ玄 神

秋 秋 三つ玄 尺

虫 虫 三つ玄 虫

山 山 三つ玄 山

水 水 三つ玄 水

右山形中川一

一旬ありて
 一旬ありて

神祇三回一志
 二つ玄なる

二つ玄なる
 二つ玄なる

二つ玄なる
 二つ玄なる

生動生動 二与云 生 白と云て二与云はくもあす
二与云は所名し

迷憶迷憶 二与云 迷 右二日一

居宿居宿 二与云 居 右二日一

衣繫衣繫 二与云 衣 右二日一

旅伴旅伴 二与云 旅 右二日一 旅と字百約と云
たつ

時分時分 二与云 時 右二日一

夜分夜分 二与云 夜 右二日一

生動生動 二与云 生 但虫も動魚たひらうして二与云
日抄ハ二与云也

植抄植物 二与云 植 但三才術と草とかりうて二与云
たつ

人倫人倫 二与云 人 与伴ハ二与云はくもあす

名所名所 二与云 名 二与云はくもあす

所名所名 二与云 所 名所ハ二与云はくもあす
二与云はくもあす

降抄降抄 二与云 降 二与云はくもあす

傳抄傳抄 二与云 傳 傳抄ハ二与云はくもあす
二与云はくもあす

先ハ立身勢に育増

人形をきひ終ふい家人になる

河此救極はくさあ悪なケはたき

すかハたぐさおにたる物おの悪い

悪人悪家悪とま悪とく悪に宿悪

友の月女系、捨女るるもこ水ら 船

夏事あきて座此月を引けり

悪

悪

夏

かりりりらふまきどけい神やま

り脚北た北ま北に北あ北家居

花極あ花極あ極ら極ハ持極し勢極あ極と極花極

○正花極ハ花極の極け極正花極ハ花極の極け極正花極ハ花極の極け極

夕水ニ北水は水は水ハ水ニ水あ水ら水ハ水上水

あ毒人の風人巾人に人負人け人く人ま人代人ら人

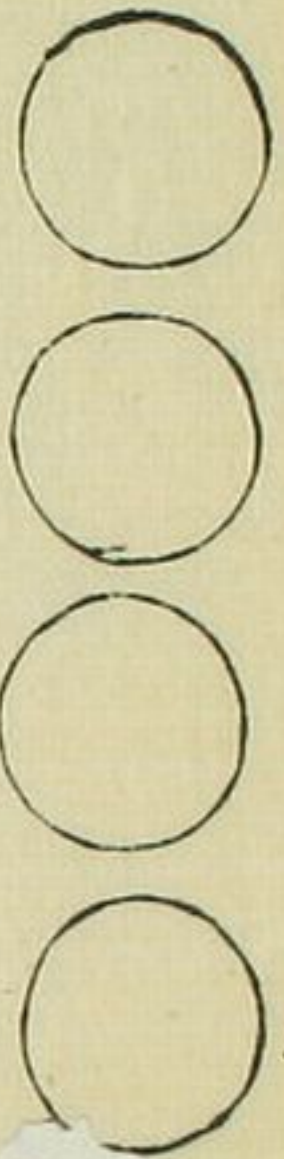
春

春

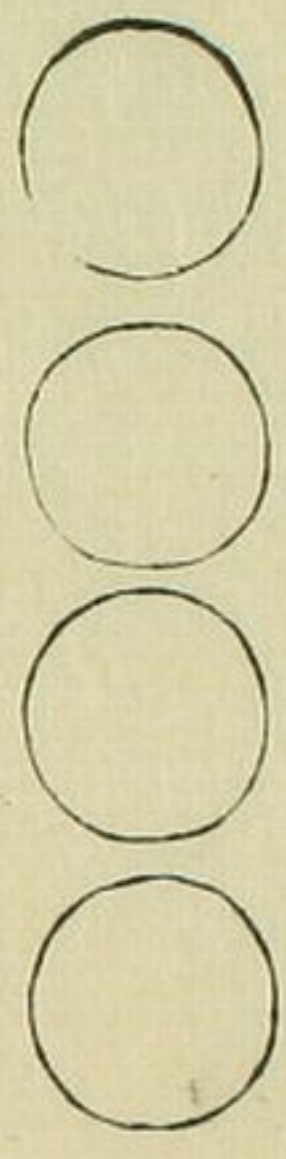
春

○白足人ニ南人上人目人

○春人三人目人



後梅経よりく斤あり

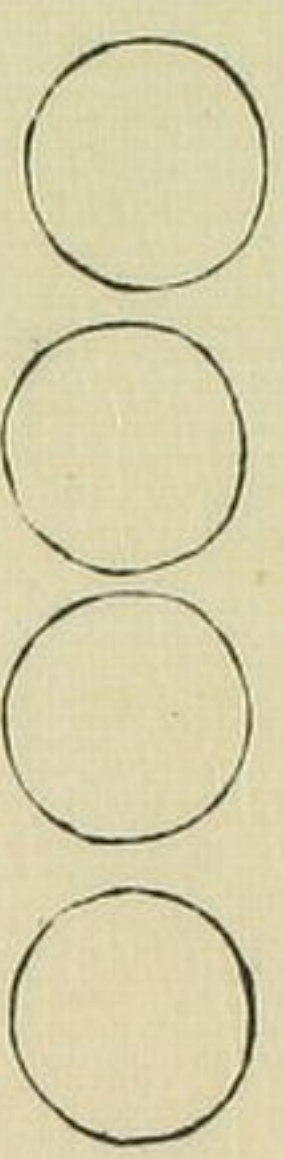


立一ふハ寝たうく梅園をみ兼

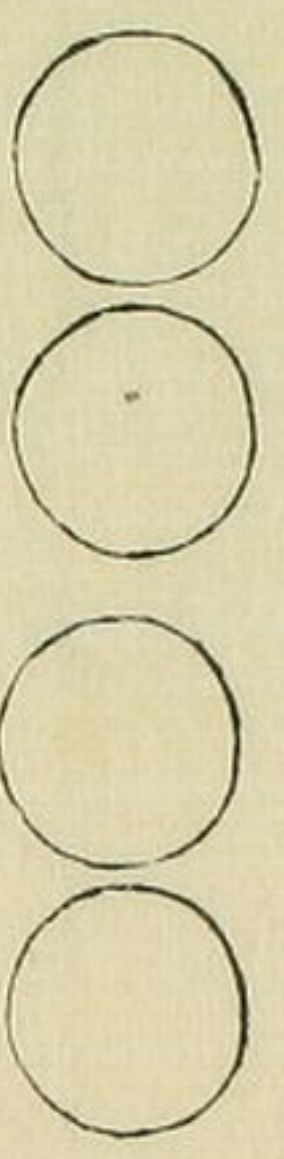


隻

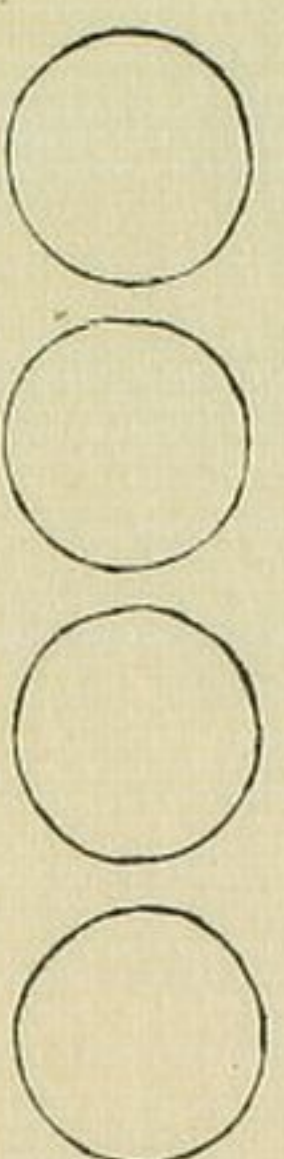
夕ア、子星日豊北草



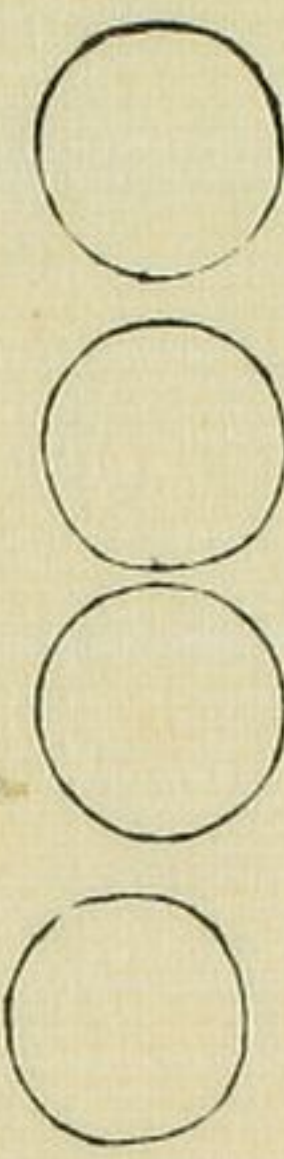
名人ハ下手にあはれ牛下白



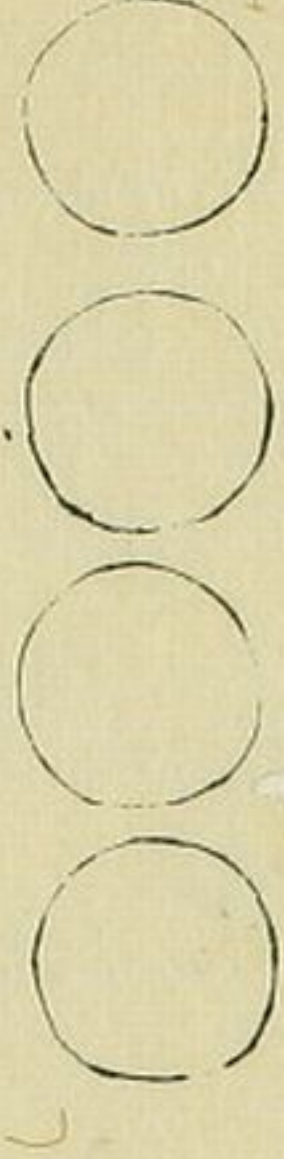
生々居り役袖物を待



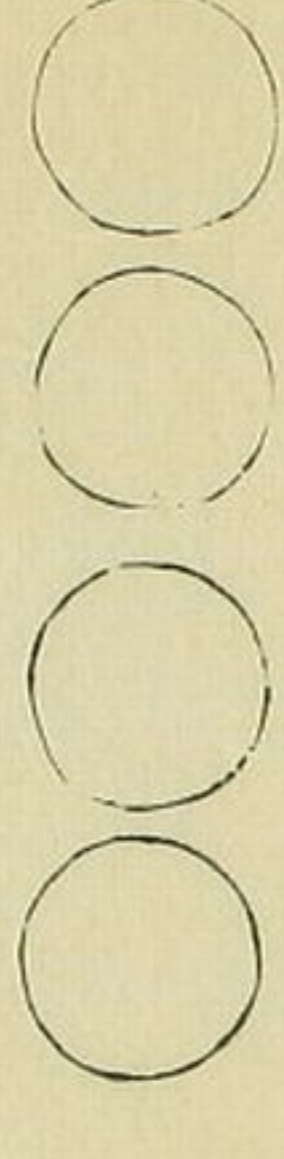
情をうつる言しくくはるん



船をせよ此の船ハ多き



名、あふ内くしら小傍をり



云つと却して並てはやく



秋

十月村ありて法月々月

出秋之は面、甲三月出く水ハ月を居ふて廿九
月内是ともく云々物、水ハ正花とす一日季
五り云外正花むつ



秋

放さる花野をん人

正花ハ正花不阿凡秋花野之是て何
花と名はけハ正花不阿凡正花ハ花と



秋

白是裏六句之
秋ハ昔中福と部ハ凡例と何

秋三句ハ

咲て乃るべき縁言北紋

此方北書降を南小所小の腕〇

過居居小居小〇医考〇

花〇の下〇ゆ〇け〇て〇輪〇を〇組〇う〇て〇織〇

正花之是を自ひの花と云ふ存式懐常の時
宗近馬ツツガ故三は名目アリ

梅水をぬく〇綯〇返〇う〇て〇蝶〇

梅と云ふて切者うさるる亦なる

春

春

冬

付括其名月ハ凡 累年付 取年 十草本説

月〇意〇白〇 菊〇合〇 小眼 無文有文 對付 既既

又〇智〇さ〇き〇付〇合〇ハ 正花櫻 正花吳花 無名中木島木

野田 穰〇穰〇 無名鳥〇名鳥〇 其外〇ふ〇と〇或〇ハ〇一字

中誰 誰 唯物を何物 實此 洞 又

かや高く 何と何と云ふ 何説を云ふ 既又

皮肉骨 東西夜話 廿四ヶ条 口傳秘変ハ牛歌也

○何を景物と云ふ則花郭云々是な色本
式して今二ヶ条も多し一屋の家近丸先本連、漢三
担二屋二与物百約曰二与物担二与物担二与物
●折を揚下物二折折一屋五与物百約五折或七与物或九与物
画二与物。七与去。子与二与物。此其去操ハ多ク用
接可也 湯筆自作秘本白川集世に多くある價物
子書を善たる也其他ノ編集多ク有るは再往ク用

中記に記するは、又四季牡丹を記んと約せハ
山井作甚厳なるに去揚ハ物を揚下名月之拍答
とハてふを此に合するを記之他ノ刊本ハ如何
可及するも又可なるし答を記し其ハ魚を揚て
揚ると中席上を遊遊の浪河を揚て之揚下
たふのりくあるを合するを記し其ハ魚を揚
たふのりくあるを合するを記し其ハ魚を揚て

たは傳はらるゝ一実ハ女をばあやまらりらるゝ出るたふと口

糊もるあやしなれハふも人ハあつてん能ををかたつて

勺を伝ひて 後勺とて未
平勺とて未 ともと 叔経冊とて 昔松は傳者世
言折下字はて

湯のふハ
大さかり候 を志ためはしむ 色指さるヤ、
見たりり ふいふを傳はらるに

其るを志してハふとあつていふ内作らふて三都

抄 二卷 とて 秘要を解らる何をも是を傳はらる傳の二

十余巻を傳はらる何をも是を傳はらる傳の二

又傳はらるゝとて 半の伝はらるゝとて 且もつて凡ふを伝は

らるゝとて 半の伝はらるゝとて 且もつて凡ふを伝は

らるゝとて 半の伝はらるゝとて 且もつて凡ふを伝は

らるゝとて 半の伝はらるゝとて 且もつて凡ふを伝は

らるゝとて 半の伝はらるゝとて 且もつて凡ふを伝は

らるゝとて 半の伝はらるゝとて 且もつて凡ふを伝は

らるゝとて 半の伝はらるゝとて 且もつて凡ふを伝は

たゞし物てふは心も亦れも亦れはのまゝの草
とたがはるゝもくろくろのくろくろのま
まゝに物も亦れは心も亦れはのまゝの草
くろくろのまゝに物も亦れは心も亦れはのまゝの草
書ありてのみくろくろのまゝに物も亦れは心も亦れはのまゝの草

越中行物傳 南福玄

